



JEG ニュースレター 137号

www.jegschweiz.com

2013年8月31日発行

小さな証

ミラノとの合同修養会で、賛美フラダンスを踊る中野明子先生に、祖母の姿を見たブラザー直美宣教師の小さな証。

キリスト者の集い

今年で30回を数える「ヨーロッパ・キリスト者の集い」は、7月31日から8月4日まで、パリの南60kmにあるフォンテーヌブローで開催されました

新入会員

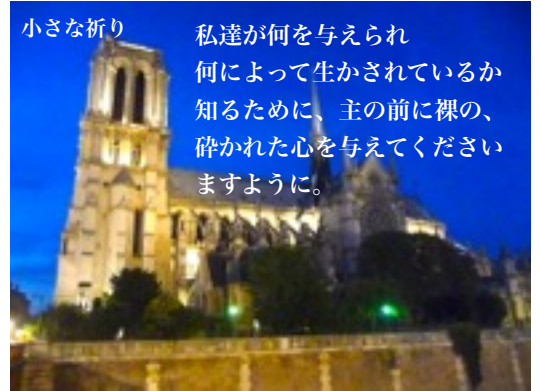
スイスJEGファミリーに新たなメンバー3人が加えられました。若がえりの進むJEGはこれからも宣教に励みます。

「集い」レポート

聖書を背景に「種蒔く人」などの名作を生んだミレーが愛したフォンテーヌブローの自然の中で開かれた第30回の「集い」のレポートです。

小さな祈り

私達が何を与えられ
何によって生かされているか
知るために、主の前に裸の、
砕かれた心を与えてくださいますように。



あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。

エペソ人への手紙 2章8節

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会が主催した第30回の「集い」は「信仰の原点を求めて」をテーマとし、エペソ人への手紙2：8を基調に、欧州に散らばるキリスト者が交わりの中かで自分にとって信仰の原点を探る魂の旅ともなりました。



ちいさな証

賛美フラダンスに見た祖母の面影
ブラザー直美

スイス日本語福音キリスト教会会員



今年の4月に祖母の文子が天に召されました。ちょうどその頃、私はスイスのキリスト教宣教団体Campus für Christusの働きのため日本に滞在中でした。祖母の入院を知っていたので、滞在中の1週間は休暇を取り、出来る限りお見舞いに行こうと思っていました。毎日祖母を見舞いましたが、体調が良かったり悪かったりという状態でした。

休暇の最後の日に、聖霊に迫られているように感じ、声を出して祈っていいかと祖母に尋ねたところ、うなずいてくれました。こうして、私は祖母の手を取り祈ることができました。私は祈る機会が与えられたことを嬉しく思いました。というのは、この日が祖母と話すことが出来た最後の日となったからです。一夜明けた翌朝4時少し前に、病院からの電話で起こされました。祖母が息を引き取ったという知らせでした。

叔母が通っている教会の牧師先生が「4月半ばに文子さんを訪問させて頂き、福音をお伝え致しました。そして、この“グッドニュース”を受け入れたいかとお尋ねしたら、うなずかれたので一緒に祈りをし、文子さんは私にお礼を言われました。私は文子さんが天国への切符を確かに手にされたことを確信致しました。」と私達に話して下さいました。

その一ヶ月後、私はスイス・イタリア語圏のアスコナで開かれたスイス日本語福音キリスト教会とミラノ賛美教会の合同修養会に出席しました。ハワイから来られた中野明子先生が、すばらしいハワイアンダンスで詩篇23篇を賛美して下さいました。明子先生はどことなく天に召された祖母に似ていて、突然、祖母が目の前に居るように思えました。私にはまるで神様が、痛みから解放され主の御前でその誉れを褒め称え、喜び踊っている祖母を見させて下さったようでした。



Im April ist meine Grossmutter Fumiko gestorben.

Zu der Zeit war ich gerade für meine Arbeit bei Campus für Christus in Japan. Ich wusste, dass meine Grossmutter im Spital war und plante eine Woche Ferien zu machen und sie in dieser Zeit oft zu besuchen.

Ich besuchte sie jeden Tag und Mal ging's ihr etwas besser mal schlechter. Ende Woche spürte ich ein Drängen des heiligen Geistes und fragte meine Grossmutter, ob ich laut für sie beten dürfe. Sie nickte und so rang ich mich dazu durch ihre Hand zu nehmen und für sie zu beten. Ich bin froh konnte ich das tun, denn das war das letzte Mal, dass ich mit ihr sprechen konnte. Die nächste Nacht wurden wir morgens kurz vor 4 von einem Anruf aus dem Spital geweckt - meine Grossmutter war friedlich eingeschlafen.

Der Pastor meiner Tante erzählte uns: «Mitte April habe ich Fumiko-san besucht und ihr das Evangelium erklärt. Ich fragte sie, ob sie das empfangen wollte und sie nickte. Ich betete mit ihr und sie bedankte sich. Ich bin überzeugt, dass Fumiko-san das Eintrittsticket für das Himmelreich fest ergriffen hat.»

Einen Monat später war ich in Ascona TI, am Weekend der Japanischen Gemeinde. Pastor Nakano's Frau zeigte uns einen wunderschönen hawaiianischen Anbetungs-Tanz zum Psalm 23. Frau Nakano hat ein wenig ähnliche Gesichtszüge wie meine Grossmutter und plötzlich hatte ich das Gefühl, dass nicht Frau Nakano, sondern meine Grossmutter vor mir ist. Mir war, als würde Gott mir zeigen, wie sie nun frei von Schmerzen und voller Freude vor IHM, zu SEINER Ehre tanzt.





1、7月14日(日)は、ベルギーから岡田直丈牧師(ブリュッセル日本語プロテスタント教会牧師)をお迎えし、主日礼拝を守りました。岡田牧師は「**主が開かれ導かれる道**」をテーマに箴言16章3節、9節、ならびに使徒の働き16章

6-10節から解き明かされました(通訳はクンツ・ルツ師)。岡田牧師は、説教に先立つ13日(土)、サンクトガーレン集会で、また15日(月)にも、チューリッヒ近郊で持たれたノンクリスチャンが多く出席された家庭集会でも証しをされました。以下は、家庭を解放して集会を催されたヘス明美姉の寄稿文です。

岡田先生を囲んで

岡田先生がブリュッセル日本語教会へ来られてから、キリスト者の集いでお会いしたり、何度かベルギーへ遊びに行った際、礼拝へ出席させていただいたけれども、個人的なお話をする機会はありませんでした。しかし今回は先生をうちへお招きし、初めて先生から救いの証や牧師へと導かれた人生についてお話を聞く機会が与えられて、大変感謝しています。先生のお話を通して、神様が導かれている道、また主からの沢山の恵みや祝福をお伺いする事が出来ました。楽しいお交わりの時間にも感謝が尽きません。どうも有難うございました。

2、かつてイスラム教徒でイラン・テヘラン市の区長という高い地位についておられたイラン人のホマユンさんは、クリスチャンを助け、イエスを信じたため公職を追われ、全ての財産を没収され、息子さんと命を賭して危険な山越えをし亡命されました。現在、スイスに住まわれていますが、ラマダンの期間中である7月28日の礼拝のなかで証をしていただきました。この感動的な証は、スイスJEGのHPからお聴き頂けます。www.jegschweiz.com/礼拝説教-audio-video/

3、8月11日(日)は、「キリスト者の集い」での御奉仕のあと、ご家族とともに、一年ぶりにスイスにお越しになられた坂野慧吉牧師(埼玉福音自由教会)に説教をして頂きました。テーマは「**イエス・キリストの福音のはじめ**」で、知っているようで知らないイエスの実像をマルコの福音書1章1-15節から解き明かしていただきました。「イエスの兄弟は何人?」「どうしてイエスは地上に生まれねばならなかったのでしょうか?」クイズ形式で始まった説教は、易しくしかし奥が深く聴くものを魅了しました。夏休み中でしたが52名の参加者があり、通訳は里帰り中の大八木タビタ姉に御奉仕いただきました。岡田直丈牧師ならびに坂野慧吉牧師のドイツ語通訳付きメッセージは、スイスJEGのメッセージ専用サイト<http://jeg.meilsalp.ch>でお聴き頂けます。



4、8月25日の礼拝において入会式が持たれ、スイスJEGに若き新入会員、ゲルスタ・アンドレアス君、トムセン・カレン姉、トムセン・ヨハナ姉が与えられ、神様の家族に加わられ、会堂は大きな喜びに満たされました。



3人はそれぞれ日本語/ドイツ語で救われた経緯を証しされました。これから福音の前進のために心と力を合わせ共に労する喜びを分かち合えることを主に感謝しました。

5、ベラ・ラシェンコ宣教師は、8月初旬に来瑞され、再び日本へ向かう1月末までIttigenにお住まいになります。帰瑞中の日々が守られ、祝福されますように。

6、7月31日~8月4日まで第30回ヨーロッパ・キリスト者の集いが仏フォンテーヌブローでパリ・プロテスタント日本語キリスト教会の主催で開かれ、スイス教会からは19名の参加者が、ヨーロッパ、日本、アジア、北米からの総勢287名とともに主の臨在のもとに豊かな祝福を受けました。



また、一年かけて4人からなる作業部会によって作り上げられた「集い」の沿革ならびに目的が代表者会議によって採択されました。このたびリニューアルした「集い」の公式ホームページに、この沿革/目的ならびに今回の集いのビデオ写真などが過去の記録とともに収録されていますので一度お訪ね下さい。www.europetsudoku.net/



7、キリスト者の集いの期間中、ヨーロッパ・ブルーリボンの祈り会(横田早紀江姉を囲む祈り会)が持たれ、日本から出席された岩崎姉の現況説明を受けたあと、心を一つにして一人一人が真摯な祈りを捧げました。

8、今年もフランクフルト日本語教会の修養会が矢吹博牧師(みことばの光編集長)を招いてリーベンツェルにて10月18日~20日まで開催され、スイス教会の兄姉も招かれ、参加が可能です。テーマは「神のみこころに生きる教会」でエペソ人への手紙から学びます。9月15日までに中村兄までお申し込み下さい。[<knakamura@gmx.de>](mailto:knakamura@gmx.de)

9、大震災と原発事故で流浪の民となった原発に一番近い教会・福島第一バプテスト教会の佐藤彰牧師が、オランダ南部キリスト教会主催で9月11日から13日まで講演されます(4Pを参照)。また、9月15日には、パリ・プロテスタント日本語教会で15時から、また17時半よりの合同礼拝にて説教されます。フランスでのプログラムについては山越兄koshi@orange.frに照会ください。

10、オーニング宣教師、クンツ・プリシキラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師からのRundbrief、工藤篤子メルマガ197号、吉村美穂ニュースレター76号、井野葉由美メルマガ101号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、イザール通信が届いています。お読みにになりたい方は、松林までご一報下さい。



8月11日、25日 愛餐会スナップ



日出ずる国より

励ましを頂きました

埼玉は浦和福音自由教会の
坂野慧吉牧師、聡子（ふさこ）夫人から



この度は、スイス教会にお招きいただき、ご奉仕の機会をお与えくださいまして、心から感謝いたします。

また、主にあってお交わりの時が与えられましたことをとても

嬉しく存じます。スイス教会の信徒の一人一人が、主のために奉仕をしておられるお姿を拝見して、励ましをいただいております。

また、お会いできる機会が与えられると信じております。さっそく写真を送っていただきまして、感謝いたします。



ヘス姉妹の案内で、家内、娘、孫はチューリッヒ市内観光を楽しみました。

一日目のザンクトガレンのクスター節子さん宅での夕方の家庭集会では、節子さん、ルート・クンツ先生、原憲二さん、佐々木千恵子さんが証しに耳を傾けて下さり、その後は美味しい夕食とデザートを戴きました。皆さん楽しく温かくて、心もお腹も満たされた一時でした。



二日目の日曜日は同時通訳付の礼拝説教を初めていたしました。予め原稿をお渡しすることになりましたルート先生には私の一文が長すぎる説教のドイツ語翻訳はとても大変だった様子で、反省させられたと共に、礼拝では御霊の導きに委ねきった説教と通訳となり、二人とも主のなさる御業に驚きつつ聖名を崇めました。



礼拝後は持ち寄りの愛餐会があり、美味しいお食事に舌鼓を打ちました。当日夜はチュー

リッヒに宿泊しました。日が暮れる前に以前からどうしても見たかったフラウミュンスター教会の前を訪れました。この教会は神学者でありチューリッヒ大学総長を務めたエミール・ブルンナーが説教していた教会で、私の神学校の恩師の故熊澤義宣先生は当教会でブルンナーの司式により奥様の喜久子夫人と結婚式を挙げられたのでした。

三日目午前は、ヘス明美さん宅で家庭集会が開かれました（大人12名、子供8名）。その中で教会の集会が初めてという4名のご婦人方がおられ、ここでも皆さんが証しに耳を傾けて下さいました。

集会後は持ち寄りの愛餐会で、ここでも美味しいお食事に舌鼓を打ち、明美さん、脇山齊さん・多恵子さんご夫妻など楽しく温かい皆さんとの歓談の時を過ごすことができました。

この三日間、お腹が満たされたと共に、主の守り導きとスイス教会の皆さまの兄弟愛を実感することができました。スイス日本語福音キリスト教会が、今後も主のご栄光を表す教会として福音の光を高く掲げ続けることができますよう、主の守り導きと祝福を心よりお祈りいたします。

「震災で何をみたか」

オランダ南部日本語キリスト教会は
サーレンス光子姉から

東日本大震災からおよそ2年半の月日が経過しようとしています。福島浜通り、福島第一原子力発電所の5キロ圏内に福島第一聖書バプテスト教会という教会があります。

この教会は60年前にアメリカの宣教師夫妻によって始められ、震災前には200名を超える教会員の



いる地元にしっかりと根付いた教会となりました。地震、津波、そして続く原発事故によって、この教

会に集っていた人たちも、自宅は勿論、教会にも戻る事ができなくなり、全国各地に散らされ、まだ多くの方々が避難生活を余儀なくされています。

このような中で、この教会は元の教会から60キロほど南のいわき市泉町に、老人および遠方からの訪問者の宿泊施設を建て、教会堂を建て、福島に戻ってきました。今年の5月から再び50人あまりの方々が、礼拝をしています。

この思いがけない突然の惨事の中で、この教会が何を体験し、何を、いかに歩んで来たのか、また、これからを、どのようなビジョンを持って歩きつづけようとしているのか、牧師夫妻を囲んでお話を聞き、また話し合える時を持ちたいと思います。

佐藤彰牧師の講演会は、9月11日（水）から13日（金）にかけて、オランダの三箇所で開かれます。詳しくは

JC SN jchurchsn.1@gmail.com

にお問い合わせください。どうぞ、皆様ご都合のよい場所、時間に、是非いらしてください。

佐藤彰（さとう・あきら）師プロフィール
山形市に生まれる。福島第一聖書バプテスト教会牧師。2011年3月11日、東日本大震災に遭い、教会は一時閉鎖。教会員や地域の人たちとともに流浪の旅に出る。教会のホームページには、海外からもアクセスがある。著書に、『選ばれてここに立つ』『流浪の教会』『続・流浪の教会』『苦しみから生まれるもの』『順風よし、逆境もまたよし』『あなたに祝福がありますように』などがある。特に、震災時にオンタイムで書かれた『流浪の教会』（いのちのことば社）は、多くの反響を呼んでいる。8月末『翼の教会-帰れない故郷を望みながら』発行予定。ホームページアドレス

www.flchurch.com

ヨーロッパの 日本語教会から

主の御業に驚きつつ

ブリュッセル日本語プロテスタント教会は
岡田直丈牧師から

敬愛するスイス教会の皆さまに感謝！！
主の聖名を讃美いたします。

この度は御教会の礼拝と家庭集会にお招き下さり、心より御礼申し上げます。

信仰の原点を求めて

第30回 ヨーロッパ・キリスト者の集い」の恵み



松林幸二郎 スイス日本語福音キリスト教会

パリ・オルセー美術館にあるミレーの「落ち穂拾い」「晩鐘」「種蒔く人」は、光に溢れる印象派の出現前に制作され、渋くて落ち着いた画風は私を魅了して止みません。私がキリスト者になってから、その名画の背景には旧約聖書（申命記24章19節—21節、ルツ記）の影響があることを知り、このミレーがパリの画壇を離れて移り住んだというパリから南60kmにあるバルピソンの村と、それを取り囲む田園風景を、また、私が敬愛する作家・[芹沢光治良](#)（こうじろう、1896-1993年、「巴里に死す」でノーベル文学賞候補に）の作品にもフォンテーヌブローやバルピソンの名がしばしば登場していて、この憧れの地を一度この目で見たいとずっと願ってきました。

その憧れの地、フォンテーヌブローの森の片隅で、今年で第30回目となる記念すべき「ヨーロッパ・キリスト者の集い」が、7月31日から8月4日までパリ日本語プロテスタント教会の主催で開かれました。「集い」には、欧州各地、祖国日本、アジア、そして北米から集められた、イエスを救い主として仰ぐ兄弟姉妹287名は、主の臨在と祝福のなかで、恵みをシャワーのように頂きました。

いまや世界各地で開かれるファミリーキャンプやリトリートのモデルとなったと言われる「集い」は1984年の夏、西ドイツ・デュッセルドルフ近郊、ランゲンベルグで欧州各地に散らばって住む邦人キリスト者が、共にみことばを学び、交わりを持ち、信仰を育くもうと、デュッセルドルフ日本語キリスト教会の一兄弟の呼びかけに応じて集まったのが始まりでした。以後、30年の長きに渡って、毎年ヨーロッパの各地に会場を替え、聖書を誤りのない神のことばとする聖書信仰に立つ在欧邦人キリスト者とその家族に加え、帰国された信徒、宣教師も加わって、「信徒による信徒のため」のプロテスタント超教派の大会となって今日に至り、その性格と創立精神はいまもそのまま受け継がれています。ここでは、教職者は与えられた召命と賜物によって奉仕、助言をしますが、一人の信徒として参加します。これは、日本における教職者が主導する教派、教団単位の聖会や修養会と大きく異なる点です。

今年の「集い」も、例年の様に本大会前日の水曜日午後のプレ大会（次世代の信仰者を育成するセミナー）によって始まり、8月1日（木）から4日（日）までが「信仰の原点を求めて」をテーマに、高橋稔パリ日本語プロテスタント教会牧師の開会礼拝における説教に続き、今年傘寿を迎えられ、今なお青年宣教師の

気概で主のために働かれる田辺正隆牧師、坂野慧吉牧師（浦和福音自由教会）を始め、欧州各地で牧会される6名の牧師らによる30回目に相応しい濃い内容の熱いメッセージが出席者の心を捉えました。その後、分科会に分かれて学びの時と交わりの時を持ちましたが、通常、年に一度しか会えない「家族」との主にある交わりは、それは貴重で祝福された時となったのは言うまでもありません。

また、ヨーロッパにおける「集い」は、音楽家や留学生が多いこともあって、音楽的なレベルが高いことも特徴と言えるでしょう。今年も、昨年のオランダでの集いに続いて、日本から25年前に創立されたクリスチャン音楽家グループ「ユーオーディア・アンサンブル」のオリジナルメンバー6名が来仏され、開会礼拝から、土曜日午後の賛美コンサート、そして閉会礼拝まで素晴らしい演奏で、聖歌隊とともに主を賛美して下さいました。



このヨーロッパの「集い」には、すべての教派、教団、教理を越え、ただただ主イエスを真の救い主と仰ぎ、罪赦され贖われ救われた心貧しきキリスト者が、主にあって一つになり、心を一にして主を賛美し、そして再び世界中に散らされ、主の証人として宣教の業に励むのです。教派教団の壁を越えて一つになれず、閉鎖感に覆われる日本のキリスト教界が、もし、この「集い」に学ぶとすればこれではないでしょうか。そして、主にあって一つになることによって初めて、主は祖国日本にリバイバルを興して下さると私は信じています。

岩波書店のシンボルマークとなったミレーの代表作「種蒔く人」は、いみじくも第30回目の集いがあった地で描かれ、それは「福音とみことば」という「種」を一途に蒔く人を彷彿させます。農業や園芸に携わる人が豊かな収穫を得る為に、まじりけの無い良い「種」が不可欠であることを知っているように、福音も聖書に正しく明確でなければなりません。そして蒔かれた後の「福音」という「種」は、その後のケアが必要なことは言うまでもありませんが、神様が責任をもって育てて下さいます。このフォンテーヌブローで豊かな霊的糧を受け祝福が注がれ、そしてそれぞれの地に散っていった「種蒔く人」が、熱き心で福音を宣べ伝えることを主は求めておられます。

ある著名な伝道者のことばです。「宣教、宣教、24時間宣教に務めなさい。もし、必要ならば言葉で！」アメン。

